

人を送る。

人はなぜ人を送るのでしょうか。

ひとつは、祈るためです。

仏さま、どうぞ亡き人をお導きください、
安らかでありますようにと祈ります。

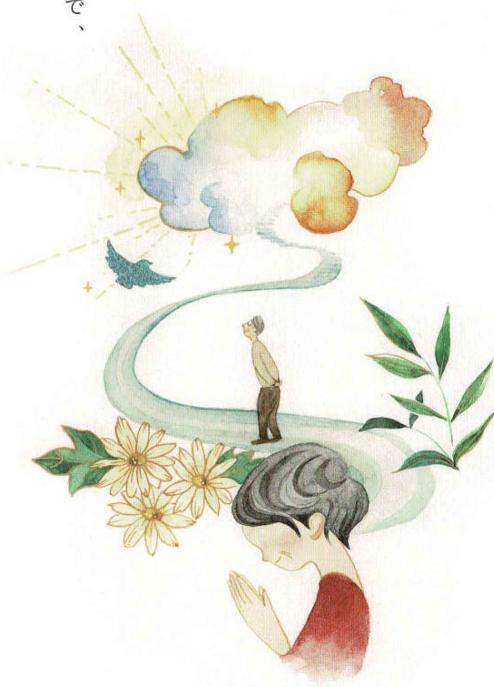
ふたつは、お知らせです。

地域社会や友人に、亡くなつたことを通知し、
お別れの挨拶あいさつをしていただきます。

みつは、生きる人の心のためです。

手を合わせ祈ることや、集まつた人と語らうことで、
私たちは、少しずつ心の健康を取り戻します。

悲しさの隣には、送るあたたかさがあります。



仏事と食。

お斎とう、精進落じょうじんらくとし、忌中きちゆう払いなど、地域や宗派ぶんぱ、

場面によつて名前が異なります。

お釈迦さまの教えを思いかえす、

供養の特別期間が終わる食事など、

由来も様々です。今、共通するのは

「思い出話をお聞かせください」との挨拶あいさつが

定型句となつていてことでしょう。

話せば「そうそう」と納得のことから「あら、そんなことも?」と、
亡くなつてなお新たに知る一面があるかもしれません。

お葬式の日だつて笑つて大丈夫。楽しい思い出があるのでですから。
ここでいただく食事は、身体の力になることはもちろん、
心にも栄養を届けてくれます。

